

1. 令和元年度花見川区利用状況報告

<p>・区全体の利用状況は、平成30年度の約23万人から令和元年度の約19万7千人と、約3万3千人減少している。花園・幕張本郷の2館が、工事休館により、開館日数が年間稼働日の約35%にあたる120日ほど少なかったため、合わせて約2万8千人減少したことが大きな要因となっている。それ以外で約5千人減少しているが、その理由として、令和元年度は、年度末、利用各団体が総括を迎える重要な時期に17日間休館せざるを得なくなるなど、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けたことがあげられる。単年度ではなく、過去4年間の推移から見てみると、市全体では利用者数が減少傾向にある中、花見川区においてはほぼ現状維持または微減の傾向にある。各館において、市民のニーズをとらえ、それに応えるべく積極的に工夫・改善しつつ事業を計画・展開してきたことによるところが大きい。また、館内外の環境整備を進め、市民の利用しやすい、過ごしやすい環境づくりに努めてきたことも理由としてあげられる。今後も地道な努力を継続し、利用者確保につなげていきたい。</p> <p>・図書室の利用状況については、令和元年度は開館日数が3日減少し、新型コロナウイルス対策による利用制限が行われた中で、花見川区図書室設置5館の合計が、平成30年度の貸出者数約9万人、貸出冊数約22万冊に対し、令和元年度はそれぞれ約8万9千人、約21万8千冊となっており、1日当たりの平均値は52人、127冊で増減なしという結果となっている。本離れが進む中、各館において、利用者目線に立った配架の工夫、親しみやすく利用しやすい環境の整備、所蔵本の利用状況に応じた除籍と積極的な新刊導入等による蔵書の見直し、新刊の紹介コーナーを設ける等広報の工夫、図書室勤務職員間のコミュニケーションや情報共有の充実、利用者との対話による利用促進などを行ってきた成果である。今後は、上記事項に加えて、将来にわたる重要な利用者候補であり、「本に親しむ習慣」を身に付けやすい、小・中学生へのアプローチを、地域の小・中学校と連携しながら進めるなどの方策にも一層力を入れていきたい。</p>
--

2. 令和元年度事業成果と令和2年度事業計画について

	公民館名	令和元年度事業成果	令和2年度運営方針	令和2年度事業計画 重点項目・特色	前年度からの改善点
1	幕張公民館	市民からの要望等を踏まえて主催事業を企画・実施したことで、多くの事業で高い応募率となるとともに、参加者の満足度も高いものとなった。また、複数の主催事業をきっかけとした新しいサークルの立ち上げが実現した。	来館者がより利用しやすい、過ごしやすい環境づくりを進めつつ、ニーズや社会の動向等を見据え、多様な年代に向け多様な事業を展開することで、利用者増加に努める。また、地域小・中学校との連携強化を図る。	各年代に対応するバランスのよい事業計画とした。また、将来の利用者候補にもなる少年向け講座を、人気の高い調理系を中心に6事業増やした。さらに、地域住民が地元への興味・関心を高めることができるような事業を実施していく。	運営審議会・運営懇談会でいただいた意見や、事業実施後のアンケート結果等を基に、小学生など子どもを対象とした講座を増やした。また、各講座の質の向上を目指し、講師との綿密な打合せを行った。
2	花園公民館	応募率が100%を超えた講座が大半であり、利用者のニーズにマッチした講座を企画実施することができた。また、公民館の講座をきっかけとして新たに1つのサークルが発足した。	「子どもの居場所づくり」という視点を踏まえて、子供たちに安心して過ごせる場を提供する。	・少年教育では学校休業日に行う事業を前年度から3事業増やした。 ・公民館サークルを活用し、市民との協働で行う事業を実施することで生涯学習の推進を図る。	広報を市政だよりだけに頼らず、自治会回覧板や館内ポスター等を活用することで、地元（地域）の参加者を募る。
3	犢橋公民館	犢橋公民館の伝統的事業の継続に加え、市民ニーズを踏まえた新しい講座も増やし実施した。また、小学校に出向き子供たちに直接案内するなど一歩踏み込んだ情報発信に努めた。	利用しやすい環境づくりと利用者のニーズにあった運営を図る。	・犢橋の特色を生かした事業(太鼓)は、年代を越えての交流を図る場として実施する。 ・利用者のニーズに応え、より利用しやすい公民館を目指す。	・アンケートの結果を重視した事業を実施する。 ・公民館利用者の利便性を考えた事業を実施する。(スリッパの使用をマイシューズへの移行)
4	検見川公民館	・隣接した小学生を対象とした事業や高齢者に向けての事業も計画通りに実施し、成果を得られた。 ・パラリンピックボランティア教育の促進の為「ポッチャ体験会」、等広い世代へ興味関心を持っていただくよう努めた。	公民館の利用層を考え高齢者をはじめと、幅広い年齢層を取り込むための講座開設を図る。	・地域で活動する講師を積極的に活用していく。 ・隣接する小学校の子供たちのより多くの活用を図るために子ども向けの講座を増やす。 ・男性向け講座を実施する。	・より多くの方に参加してもらえるように地域の実態を考慮し、需要の高いものを率先して実施した。 ・参加者の少なかった講座を見直し、男性向けの講座を含め調理室を活用した講座を増やした。
5	花見川公民館	地域の高齢化に伴い、寝たきり予防の運動器対策、身心を鍛える健康体操、成年後見人制度の講座などを開催し、地域のサポートを行った。また、毎月公民館だよりを発行し、地域自治会を通して回覧していただくことで広報に努めた。	利用者の増加を目指し、広報活動に力を入れ今まで利用していなかった方の利用増を図る	・成人教育で、今まで取り組んでいなかったジャンルに講座内容を広げ、利用者増を図る。 ・第5週の利用者増加のため、名画鑑賞会を通年で実施する。	・アンケートの結果から講座内容の見直しを実施した。 ・運営懇談会での要望から、スマホ体験講座を実施した。
6	さつきが丘公民館	市民（特に地域）の実態やニーズを踏まえ講座を企画し、多くの地域住民の参加を得られた。分野は、法律・医療・趣味・生活等多岐にわたり実施できたことは有意義であったと考える。	・地域の子供たちが寄ってみたいくなる場づくりを進める。 ・地域の実態を捉え、ニーズに応える運営を行う。	・少年教育で参加型の講座（工作教室・料理教室など）を実施する。 ・地域で求める講座（医療・法律・趣味など）を継続していく。 ・図書室の整美に努める。	地域の方が今後の趣味やサークル活動に生かせる講座を取り入れた。
7	こてはし台公民館	・受講者アンケートを生かして、講座の内容を改善し、希望に沿えるようにした。 ・千葉市の文化財を紹介する内容を積極的に加えた。	幅広い年代が、利用しやすい環境を作り、様々な講座を展開していく。	成人教育の一部を、日曜日に開催することで、60歳未満の利用推進を図る。	昨年度、単発的に開催していた、終活関連講座を、一連の講座とした。3年から5年間のスパンで実施することを考え、講師との講座内容の打合せを綿密に行うよう努める。
8	長作公民館	利用者からの要望を受け、生涯学習センターのボランティア講師と連携し、手品、バルーンアート等の親子で楽しめる講座を企画実施した。また、自治会への広報により情報の提供に努めた。	・公民館利用の少ない若年層向けの講座を多く開催する。 ・高齢者向けの講座でも年代を限定せずに多くの人が参加できるようにする。	少年教育では親子の触れ合いを充実させるため、ゆかた着付、アートフラワーを主に親子参加としたが、大人だけの参加も可として、大人との交流を図れるようにする。	利用サークルを活性化するため、従来の詩吟に加えて、今年度は囲碁の講座をサークルの援助で行うこととした。
9	朝日ヶ丘公民館	軽音楽や琴などの鑑賞会を社会福祉協議会によるふれあい食事に合わせて5回開催し、高齢者の交流・文化鑑賞や利用団体の活動成果を発表する場として好評を得た。また、利用しやすい環境の整備として一部トイレを和式から洋式へ改修した。	地域の人々が利用しやすい環境づくりに努める。	・事業計画には入っていないが、「みんなの学校」との共催事業で、男性料理教室などの事業を実施する予定である。 ・少年教育として小学校の体育館を借りて縄跳び教室を実施予定。	・昨年度人気のない講座をやめ、今年度新規に6事業入れ替えた。 ・利用サークル活性化及び立ち上げのため2事業の援助を行う。
10	幕張本郷公民館	環境整備として空調・電気設備等を改修し、より利用者が使いやすい公民館となった。また、中学校との連携を強化し、吹奏楽部だけでなく演劇部、美術部にも協力いただいた。さらに、市民からの要望等を踏まえて調理系と歴史系の主催事業を増やした。	幅広い年代層に来館するきっかけになるような事業の展開や多様なサークル活動を通した触れ合いの機会を提供し、生涯学習の場となる公民館、そして、だれもが立ち寄れる地域に根差した公民館を目指す。	・地域の声を聴き、より広く、より多く、より面白い多様な講座開設！ ・地域小・中学校への情報発信&来館者への声掛け・キャッチ大作戦！	・小学生対象の料理講座を親子の交流を深めるため親子対象にした。 ・歴史講座の内容を地域の7年祭りに絞って実施することとした。 ・アンガーマネジメント講座の受講者を中学生の保護者にまで広げた。